上田市交流・文化施設等基本設計業務 公募型プロポーザル実施結果・講評

平成22年11月

上田市 交流・文化施設等設計者選定専門委員会

1. 選定経過

年月日	内容
H22. 8. 4	委員委嘱
	第 1 回 交流·文化施設等設計者選定専門委員会
H22. 8.20	第 2 回 交流・文化施設等設計者選定専門委員会
	・プロポーザル実施方法等の決定
H22. 8.23	公募型プロポーザル公告
H22. 8.27	現地見学会
H22. 9.13	参加表明書提出締切
	・参加表明書提出者 2 1 者
H22. 9.17	第 3 回 交流・文化施設等設計者選定専門委員会
	・第一次審査(提案書提出要請者 5 者選定)
	提案書提出要請書送付
H22.10.18	提案書提出締切
H22.10.21	第 4 回 交流・文化施設等設計者選定専門委員会
H22.10.30	第 5 回 交流・文化施設等設計者選定専門委員会
	・第二次審査(公開プレゼンテーション)
	・選定結果報告

2. 第二次審査(公開プレゼンテーション)

(1)評価 [合 計 100]

提案書、プレゼンテーションの内容よる総合的評価[配点小計90]

①基本的方向性に対する提案内容(設計コンセプト) (配点 30)

②敷地内の全体構成と施設提案 (配点 45)

③デザイン・ポリシー (配点 15)

事務所・企業体の業務経歴及び能力・実績 担当技術者の経験及び能力

[配点小計 10]

(2) 結果

説明順	提案書提出者名	評価点
1	佐藤総合計画・エービーシー設計共同企業体	56.2
2	日本設計・アールアイエー設計共同企業体	72.7
3	柳澤孝彦+TAK 建築研究所・梓 設計共同企業体	77.7
4	 ㈱新居千秋都市建築設計	59.9
5	久米・第一設計 設計共同企業体	61.8

3. 選定結果

最優秀者 柳澤孝彦 + TAK 建築研究所・梓 設計共同企業体

優秀者 日本設計・アールアイエー設計共同企業体

4. 総評

委員長 日端 康雄

上田市は基本設計事業者の選定について公募型プロポーザル方式を採用し、 先に、21者の参加表明を受けて、第一次審査で5者を選ばせて頂きました。

そして今回は、昨年末に策定された市の「上田市交流・文化施設等整備計画」を踏まえて、大・小ホール、美術館、交流施設、緑地・広場などの施設を複合させた新たな文化交流拠点の具体的な整備方針について5者から提案書を提出いただき、あわせて公開プレゼンテーションを実施いたしました。

各提案者からはデザインだけでなく管理運営、施設の経営に至るまで様々なご提案をして頂きました。いずれも意欲的で創意に溢れるものでした。市の整備計画書には施設の機能、規模などが示されているだけで、かたちのイメージが示されていませんが、整備計画を具体的な空間に落とし込むと、これほど多様で創造的なものになるのかと再認識し、改めて提案者の皆さんのご努力に敬意を表したいと思います。

5 者のご提案はそれぞれ異なる考え方をもとに構成されていましたが、複合化された施設群をみるといくつかの類型がみえるように思います。

一つは、ホール、美術館、交流施設などをひとつの大建築にまとめるタイプですが、コンパクトに各種機能が集約できる一方で、屋外にアクティビティが広がりにくいという印象を受けました。

二つ目のパターンは、交流広場を核にして複合化させる方法でしたが、広場を中心に賑わいが集約化される一方で、外部への広がりに欠け、周辺のオープンスペース、青空駐車場から、施設群がやや浮いた形になっている印象がありました。

さらに三つ目のパターンは、モールを使って各施設を連結させる方法で、 各々をある程度独立させながら、それぞれ工夫を凝らしたモールでつなぎ連 携を持たせて、複合施設群を構成しています。

この3つの複合化の方法はひとつの提案で重なっているものもあるが、いずれにしてもモールによる連結が動線の広がりによる賑わいの演出と施設相互の独立と連携を両立させるという点で良かったように思われました。

最終審査においては、いくつかの評価の視点による各委員の採点をもとに、様々な角度から委員会で議論を行いました。特に、二つの優秀案については、上田市にとって百年に一度と言われる文化投資に対して、新たな要素を文化のシンボルとして大胆に持ち込んで新しい上田市のイメージを創造し、上田の歴史、風土の文脈に収める質の高い施設群の提案の性格が出ていると思われます。

最終的には、各施設提案のクオリティが高く、将来まで見据えた管理面やコスト面にも配慮された提案が、総合的に最も優れていると評価され、評価点どおりの結果になったものと思います。

いずれにいたしましても、今回参加いただいたすべての企業からはそれぞれ秀でた提案が沢山示され、優れた能力を発揮されて素晴らしい知恵を絞って頂いたことに心から感謝申し上げます。

5. 講評

●説明順①番 佐藤総合計画・エービーシー設計共同企業体

各施設を四角い平面の低層建物に集約して、敷地中央に配置し、西側に駐車場の大部分、北側に「交流広場」、東側に「芝生広場」を配置するシンプルな敷地利用で全体を構成している。配置に関しては、「南北軸に配置し、北側にも表情を持たせることで近づきやすさをつくる」といった意見と、「集約化されすぎており、賑わいに広がりが見えない」といった意見もあった。

建物の外観は、フラットな屋根と、大ホールを包み込む繭をモチーフとしたシルエットの屋根に特徴がある。大ホール外側を表皮のように覆うこの繭型の屋根は、「蚕都」上田の歴史性を継承する、新しいシンボル的な景観として提案されているが、これについても、「ランドマーク、上田市民のシンボルとなるだろう」といった肯定的な意見がある一方、「構造が不明で、維持管理も難しいのでは」といった意見も出された。

また、建物東側に配置される「芝生広場」は、千曲川まで通り抜ける人の動線ともなり、建物際は深い庇の下に、半屋外空間を形成し、広場側からも多目的ルーム、練習室、リハーサル室を見せる計画としているが、広場自体に魅力が感じられないといったことや、実際の利用時に果たしてオープンにできるか疑問という指摘があった。

南側の堤防沿いは人工地盤となり、ホワイエ、レストランと一体となる展望デッキが配置され、下は駐車場の一部と、さらに東側に藤棚の駐輪場がある。

建物内の配置では、北側の商業施設と向き合うメインエントランスから、屋内に入るとロビーに面し市民ギャラリーや創作の中庭、美術館が配置されており、多目的ルーム、練習室、リハーサル室とも近接するため、音の問題が心配されるという指摘や、コンパクトな割りに各機能の関係性が薄く、賑わいにつながらないのでは、という指摘があった。一方、このように一つの大きな建物の中に、コンパクトに各種機能を集約することは、管理的にみれば使いやすいとの評価もされた。馬蹄形の客席を持つ大ホールは、小ホールと近接して配置されているため、相互の音、振動を遮断する構造が必要とされた。



●説明順②番 日本設計・アールアイエー設計共同企業体

上田城を中心とした円弧に沿って、長くカーブした形状の「アートモール」を配置し、このモールに大ホール、小ホール、美術館が放射状に並んで取り付き、大小ホールの間の「アーティストプラザ」は、上田城を結ぶ軸線上に配置されている。

「アートモール」は、商業施設と向かい合って配置され、ショーウィンドウのように、都市性を演出する装置として提案されている。「賑わいの広場」と連続した大ホール北側の「憩いの広場」は、小高い丘のように2階レベルまで上がり、大ホールの外側を回遊できる人工地盤の広場となっている。この広場は施設南側にもつながり、千曲川沿いの桜堤と連続する「創造の広場」となっている。

敷地全体の配置については、「アートモールによる各施設の連続性により多くの市民が親しめる」「思い切り街に翼を広げて、誰でも迎えてくれる感じがよい」といった意見があり、都市計画的にも隣接する商業施設に負けない活力拠点となれるような期待感が持てる提案とされた。3ヶ所の広場についても、ひとつひとつが親しみやすいと評価された。

各施設の提案では、大ホールと小ホールの屋根は、背景の太郎山などの山並みを意識した台形の形態で、ランドスケープ建築として、新しい風景を提案している、ボリューム感がある大ホールは、西側の住宅地から十分な距離を確保し、ホールと屋根の中間層で集熱する環境面での配慮もなされていてよいとする一方、大ホールが一番西側に配置していることに対する疑問や、ボリュームがありすぎるといった指摘、また、美術館の屋根にもデザイン上の配慮が欲しいという指摘もあった。

美術館を駅側に配置した点については、トータルで開館時間が長いため、 駅から来る人を呼び込むのに良い考え方とする意見と、夜間にホールに来る 人に対し、美術館がいつも閉まっている状態になることを懸念する意見とに 分かれた。

全体的に「アートモール」「アーティストプラザ」をはじめとする本施設の ユニークさが、商業施設と連動して上田の新たな活力拠点が創出されるとい う期待感から評価も高かったが、モールなどの管理の難しさが指摘された。

また、お城を中心とした円弧や軸線、大きな山型の屋根による景観は、上田固有の市街地構造や山並みと必ずしも呼応していないという指摘もあった。



●説明順③番 柳澤孝彦+TAK 建築研究所·梓設計共同企業体

敷地中央にシンボル的な円形の「芝生広場」を配置し、回廊型の「プロムナード」が広場を囲み、東側にホールゾーン、西側に緑地で囲まれた美術館ゾーン、南側の堤防下に駐車場とエントランスゾーンの低層施設群をぶどうの房と実のごとくクラスター状に配置している。

配置の特徴は中央の芝生広場と円環状のプロムナードであり、「商業的な賑わいから文化的な賑わいへと緩やかな繋がりを巧みに作り出している」市民はもう一つの街を散歩している気分になる施設提案である」といった評価が多い一方「広場やプロムナードが過大すぎるのでは」といった意見もあった。

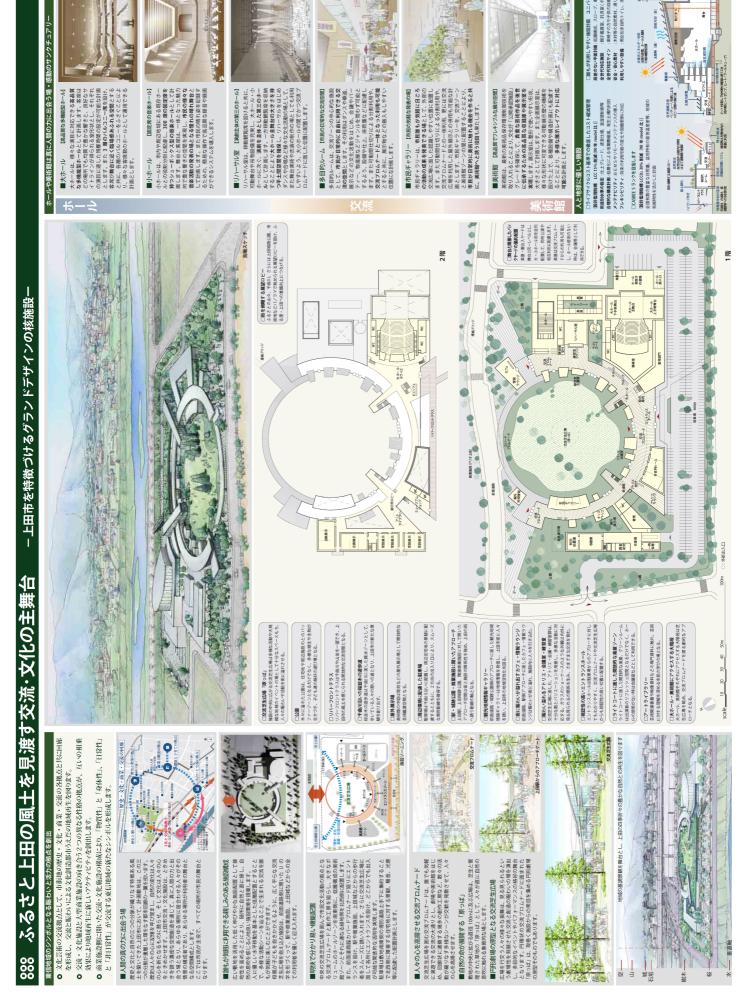
各施設へはいずれもこの「プロムナード」を経由してアプローチする計画であり、大半の機能が 1 階に配置され水平動線で結ばれている。こうした明快な配置は、利用者にとってわかりやすく、避難やバリアフリーなどの面でも安心感があると評価が高かった。一方で、地味な印象となり、商業施設の賑やかさに比較して埋没してしまわないかという懸念も示された。

外部空間は、敷地全体の建物外周を緑地として、接地性が高く、既存樹木も極力残し、自然との一体性、景観的な調和にも配慮されている。また、原っぱのイメージによる円形の「芝生広場」は、アトリエ、ギャラリー、会議室等が顔を出し、円形の強い形態を和らげている。一方で、上田の気候風土においてこの維持管理が心配という懸念も示された。

3層のバルコニーによる大ホールは、公演規模に応じた利用可能な提案で、 リハーサル室を演劇用にも利用する第三のホールとし、小ホールを固定席に よる音楽ホールとして提案された。各施設の使い分けや詳細は、今後の設計 における検討課題ではあるが、こうした各施設の内容についても設計者の意 図が感じられる点は高く評価された。

また、美術館の計画についてもきちんと考えられている点、駐車場についても、建物への動線、エントランスも含め表裏がなく、誰もが利用しやすい点なども評価された。

今後の課題としては、単調で分散的にならないような、各施設の距離感の検討や、中央の芝生広場(原っぱ)の活かし方、千曲川側の「リバーフロントテラス」のありかたなど何点か指摘もあったが、全体として、各施設それぞれで、質の高い空間の創出が期待される、良く考えられた施設提案となっており、景観的な配慮や、コストダウンにつながる期待感も含め評価する意見が多かった。



●説明順④番 ㈱新居千秋都市建築設計

計画地北東側の「芝生広場」と、これに連続する屋内の「交流広場」を千曲川の流れに見立てて配置し、「交流広場」を中心に大ホール、小ホール、美術館を中州のように配置した全体構成となっている。また、西側に大きく駐車場を設けている。

「交流広場」を介してY字型に配置された各施設のうち、大ホールは敷地の南東側に寄せて、商業施設に向けて既存樹木を残した大きな「芝生広場」を配置するとともに、新幹線からの振動も意識してなるべく離している。

また、上田城から千曲川の対岸の山々の夕陽とともに本施設の夜景が見えるよう、商業施設の影に隠れないことも意図した配置となっていた。

配置については、「コンパクトな施設配置だが、街に開かれているとは言いがたい」「施設が千曲川側に寄っていて、芝生広場がかえって距離感を与えてしまうのではないか」といった意見もあった。

何らかのイベント開催時には、屋外の「芝生広場」と、屋内の「交流広場」との一体利用も可能としており、交流広場については、賑わいをもたらす空間として、また使い勝手もよいのではないかといった評価や、図書コーナーなど活性化につながる提案を評価する意見もあったが、敷地全体や外部への広がりという点では、懸念される意見も出された。

また、「交流広場」に人の動線を集中させて、管理を効率化するという提案に対して、むしろ管理する人数が多くなりイニシャルコストがかかりそうという懸念が示された。

周辺への配慮という部分で、大規模な駐車場が西側の住宅地側に配置されている点や、施設の管理面、使いやすさという点では、管理運営事務室や、大、小ホールを結ぶバックヤードの動線が十分に確保されていない点も指摘された。

他での設計実績、経験を踏まえ、建設費コストの削減やまちづくり交付金の効果的導入による負担軽減への提案、千曲川や甲冑をモチーフとした大ホール内部のレイアウト等の3Dによる設計シミュレーション技術の活用、小ホールでの固定席に近い性能を有する試作中の可動席の導入など、今後の設計に期待できる内容も提案されたが、一方で、本施設の整備内容について確固とした提案があまり強く感じられない印象となった。



●説明順⑤番 久米·第一設計 設計共同企業体

上田の新しい文化の城として、各施設を一体の建物に集約して計画地中央南寄りに配置し、駐車場を東西と堤防下に分散させ、北側に、メインアプローチとなる「サイトループモール」と「憩いの森」、「観る庭」、「イベント広場」、「つくるひろば」と称した広場を配置する全体構成となっている。

配置に対しては、「全体的に動線が複雑」ではないか「維持管理面でも大変 そう」といった意見が出される一方、「モールを中心にいろいろな機能が向か い合う楽しさがある」といった意見もあった。

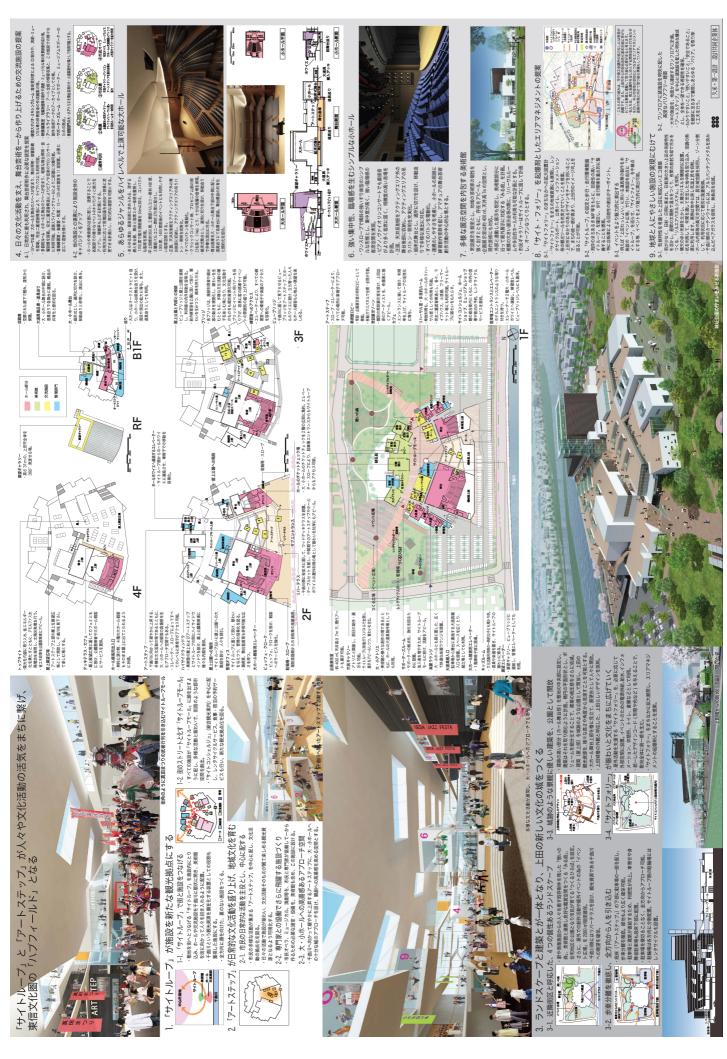
また、「サイトループモール」は、計画地の外にも延長していくイメージで、 レンタサイクルポート、インフォメーション、トイレ等の「サイトフォリー」 を市街地に配置していくことも、エリアマネージメントのアイデアとして示 された。

城に見立てた平面形状の建物内は、「サイトループモール」、「アートステップ」を経由して各施設にアプローチする計画で、大、小ホールのホワイエは、千曲川の堤防沿いの「リバーテラス」と一体利用も可能な計画としている。

一方、屋上も含め各階に分散して施設が配置され、3階レベルのブリッジによる動線もあり、階段が多いことなども含めユニバーサルデザイン面での指摘や、利用者にとってわかりにくいのではないかという指摘があった。

建物中央部に立ち上がる大ホールのフライ上部(舞台上部)を、上田城の櫓に見立てた「展望ギャラリー」とする提案については、必要性に疑問を持つ意見や、西側住宅地に対するプライバシーの問題が発生する懸念が示された。

また、全体的に壁面が多く閉鎖的な印象もあるが、中に入ると「サイトループモール」に面して様々な活動が見え隠れして親しみ感をつくり出していると評価する一方、美術館、リハーサル室、多目的ルームなどの音の問題や商業施設に向き合う広場に面した美術館の開口部について、展示空間として制約が生じるのではないかという指摘もあった。



6. 交流·文化施設等設計者選定専門委員会名簿

氏 名	職業等	備考
日端康雄	慶應義塾大学名誉教授	委員長
桑谷哲男	座・高円寺(杉並区立杉並芸術会館)支配人	
佐田繁理	(株)さだ企画 代表取締役社長	
鈴木伸治	横浜市立大学国際総合科学部准教授	
土本俊和	信州大学工学部建築学科教授	
津村 卓	(財)地域創造 芸術環境部プロデューサー	
原田泰治	グラフィックデザイナー	
本杉省三	日本大学理工学部建築学科教授	
石黒豊	上田市副市長	副委員長
小山壽一	上田市教育長	